

[評者]
松村正巳
自治医大教授・地域医療学
センター総合診療部門



市中感染症診療の考え方と進め方 第2集

IDATEN 感染症セミナー実況中継

IDATEN セミナーテキスト編集委員会 編

●B5・頁364 2015年7月

定価：本体5,500円＋税

[ISBN978-4-260-02056-5]医学書院刊

IDATEN (Infectious Disease Association for Teaching and Education in Nippon：日本感染症教育研究会) から『市中感染症診療の考え方と進め方 第2集』が出版された。「IDATEN 感染症セミナー実況中継」と副題が付いている。IDATENにより夏と冬に行われ、受講希望者の多い感染症セミナーの2013年サマーセミナーにおけるレクチャーを基にした内容である。「系統的に感染症を学ぶために受講したい」と思いつつ未受講の身にとっては、朗報である。

プライマリ・ケア医の診療において、感染症の占める範囲は広い。それ故、市中感染症診療の知識と経験はきわめて重要である。本書では市中感染症診療の課題に対し、良きアドバイスとなるであろう項目立てとなっている。いくつか挙げてみると、「小児の発熱へのアプローチ」「予防接種入門」「風邪の診かた」「肺炎のマネジメント」「尿路感染症のマネジメント」「PID・

STIのマネジメント」「非専門家のためのHIV感染症のマネジメント」となる。われわれが日々遭遇する具体例の提示の後に、おのおのへの対応が記述され読みやすい。

今まで経験的に「こうであろう」と考えていたことも、理論的に説明され、ふに落ちる。「風邪の診かた」は、“風邪の定義”，“[3症状チェック]のコツと注意事項”など、多くの方に読んでもらいたい内容である。「PID・STIのマネジメント」での“sexual historyのとり方”は、経験を重ねた医師にも参考になる。もちろん病院総合医にとっても感染症の良き指南書である。

本書の執筆陣が「自分の病院の、地域の、ひいては日本の感染症診療をよくしたい」(「序より」)と想い執筆した心意気がよく伝わる書である。医学生、若手医師、プライマリ・ケア医に推薦したい。本書が感染症を患う人の守護神になることを願っている。